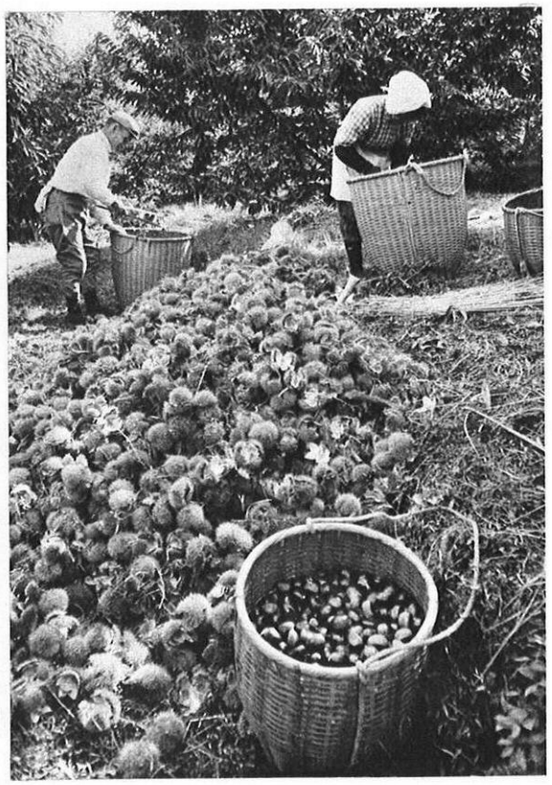
下・たわわにみのった栗畠に晩秋の陽が

栗

— 鹿本郡鹿北町にて —

鹿北町の90％は山林。この山林に栗が栽培されるようになってからの歴史は古い。31年の農林省での栗の新種開拓に呼応し、新種の増殖に踏み切った。40年には構造改善事業として、生産農家もふえ、生産量も年間150トンまでに伸びてきた。反当りの収量は400Kgで反収6万円が見込まれている。各農家でとれた栗は中央集荷所へ集められ、選果機で選別。4割は加工原料としてかん詰工場へ、残りは北九州、大阪の各市場へトラックで送られている。



上・栗の採取は家族総動員で…

上・採取された栗は、各農家で品質を大別していく

下・中央集荷所に集められ、さらに選果機にかけられる

最近、新聞紙上で話題を賑わしていることに九州縦貫道の着工の問題があります。これは、正式には国土開発縦貫道九州自動車道と呼ばれるものであります。近く福岡〜熊本間についてその基本計画が決定され、当公団の手で着工することになっております。来年には、この区間でどしどし用地売収が行なわれることになります。自動車道全線について、その完成は、一応昭和五十年ということになっておりますが、福岡〜熊本については、それに先立って完成次第供用が開始されるものと考えております。名神高速道路を走られた方はよくわかりになると思いますが、高速道路上の毎時百粁は、現在道路の毎時五十粁程度の走行感しかありません。確かに、道路の革命で、福岡〜熊本間約百粁は、約一時間で走れることになります。この高速道路が、鹿児島まで通じますと、従来熊本が北九州にしめた位置は、鹿児島がしめることになり、週末の旅行等は、霧島方面にまで及ぶことになります。このようなことから、高速道路ができた場合、熊本周辺は、一部財界筋より通過駅になるのではないかと危惧をいだかれております。今後、高速道路に処する一つの問題点とは考えられますが、現在福岡市が負っている交通上の要衝としての約目を、むしろ熊本が負うぐらいの意気込みでの施策があれば、その地位が重くなりこそすれ、低くなるものではないと考えております。現在福岡市で南九州、西九州よりの交通が流入、流出されておりますが、福岡素通りというのは、交通量全部の十数％に過ぎません。大半が、福岡に入り、また出て行っております。

観光に特色を…

次に、阿蘇—熊本—天草の観光の今後の問題について、思いつくままに気儘に述べて見たいと存じます。先づ第一は、宿泊施設の整備の問題です。私自身もお客さんの宿を阿蘇地区、熊本地区に探すことがありますが、中々手頃なものが急には見出せず、外の地域よりは不便を感ずることがあります。県のお方に聞きますと、数字の上では、そうでもないんだということですが、何か不備なような先入的印象が持たれます。これでは、まづ素通りの原因であり、別府か雲仙にこの点を譲ることになるわけです。

次に観光地の特色ということですが、雲仙あり、別府ありのルートで阿蘇〜熊本〜天草ならではの特色を打出していただきたいものです。卑近な例ですが、熊本で食べるものと大阪・東京で食べるものが一緒では、魅力のないものと考えられます。鹿児島の指宿で、新婚旅行者に対して、新婚植樹をやっておりますが、手近かな工夫で特色が活かされていると思います。十年後、二十年後あの樹はどうなっているだろうということで再度訪ねてくることになります。また阿蘇の特色ということで、国立青年の家がつくられ、研修、修学旅行の場としての活用がはかられておりますが、結構なことと考えます。熊本各地で、それぞれの特色づけが、大きな県の立場から小さな個々の業者の立場まで努力されることが必要ではないかと思います。コケシ一つをとっても、箱根・日光と同じでは全く味気ないものです。

福岡市に住む私も、お客さんに福岡市周辺の案内となると、大宰府に西公園といったところで、一寸首をひねるような状態ですが、同じようなことが、熊本市についてもいえるようです。熊本城と水前寺だけでは聊か淋しい気がいたします。金峰山を初めとする三岳の周辺に何か工夫の所在もあるように考えます。田原坂の古戦場など、茶屋の古風な味とともにもっと活用されて良いのではないでしょうか。

先に、天草のパールラインに触れましたが、天草島内の道路はまだまだ不備であり、観光開発という段階にきておりませんが、県としては、現行予算の裏付の範囲で相当の努力をしておられます。一日も早く牛深まで舗装道が通じたいものです。

今まで、私自身が道路の専門ですので、道路を中心として、観光を見て参りましたが、同じ陸からの観光にも鉄道があり、また空と海よりの観光を忘れては、大局を論ずることはできません。特に空の問題は、今後における焦点であると考えます。瀬の本高原に国際空港などと夢も画かれておりますが、気象上の大きな欠点があるとしても、観光を論ずる立場からは、極めて真剣なものであると考えます。

今後の観光については、夢は大きく、一歩一歩前向きにしかも独善を排して、熊本県民のモッコス精神が観光面で発揮されるように期待しております。

（日本道路公団福岡支社長）

県章募集

県のマークを考えて下さい

熊本県を象徴する簡潔なもの、なお創作で未発表のもの。

用紙、図案　用紙はケント紙A6判型（10.5×14.8cm）白色、図案は黒一色で直径7cm大二〇〇字程度にまとめた簡単な図案の説明をつけること

締切　昭和41年2月28日（当日までに到着のこと）

発表　昭和41年3月31日発表は入選者に直接通知するとともに適当な方法で発表する

審査　熊本県関係者・専門家で構成した審査委員会で審査

賞金　入選一点　一〇万円　佳作　二点　一万円

版権　入選図案の版権は熊本県に属する

その他　イ、採用図案は適宜修正、補作して使用する場合がある　ロ、応募原稿は返却しない　ハ、問合せには応じない

宛先　熊本県広報課県章募集係　熊本市桜町三—一〇